

## 精神文化の保全対策に係る検討（案）

～ 第3回検討会 精神文化保全対策の考え方（基本方針）より抜粋 ～

## ● 基本理念

1. アイヌの人々の文化享有権を尊重することをふまえて、文化的伝統と慣習をもとにした精神文化について、アイヌの人々の想いを大切に、次世代への継承に努める。
2. アイヌの文化・環境・社会的な背景を考慮し、アイヌの人々の参加を含め、保全対策のプロセスを重視する。
3. 儀礼行為に関し、文化的プライバシーを尊重する。
4. アイヌ以外の人々の理解を深めることにも留意する。

## ● 基本方針

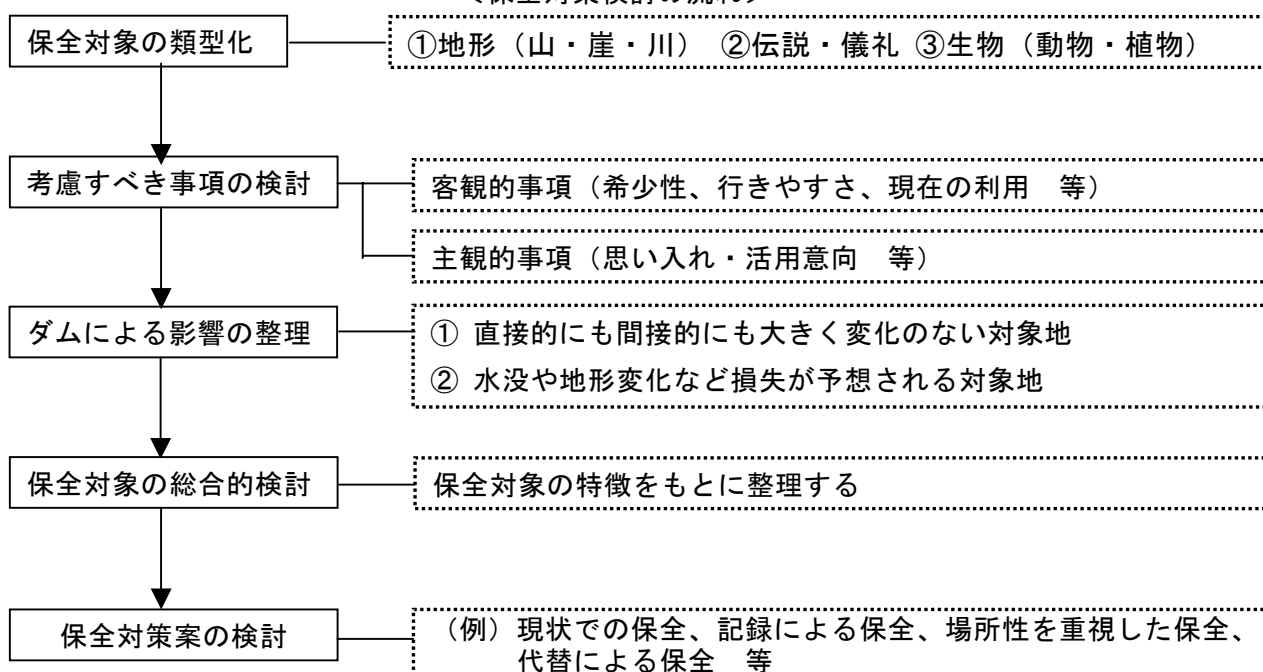
1. 精神文化に係る保全対象については、総括報告書による。
2. 保全対象について、文化的価値等の考慮すべき事項を検討する。
3. 保全対象について、ダム事業の影響を把握する。
4. ダム事業の影響と文化的価値等をふまえ、保全対策を総合的に検討する。
5. 有形・無形にかかわらず、多様な保全対策の手法を考える。

## ● 保全対策検討の手法

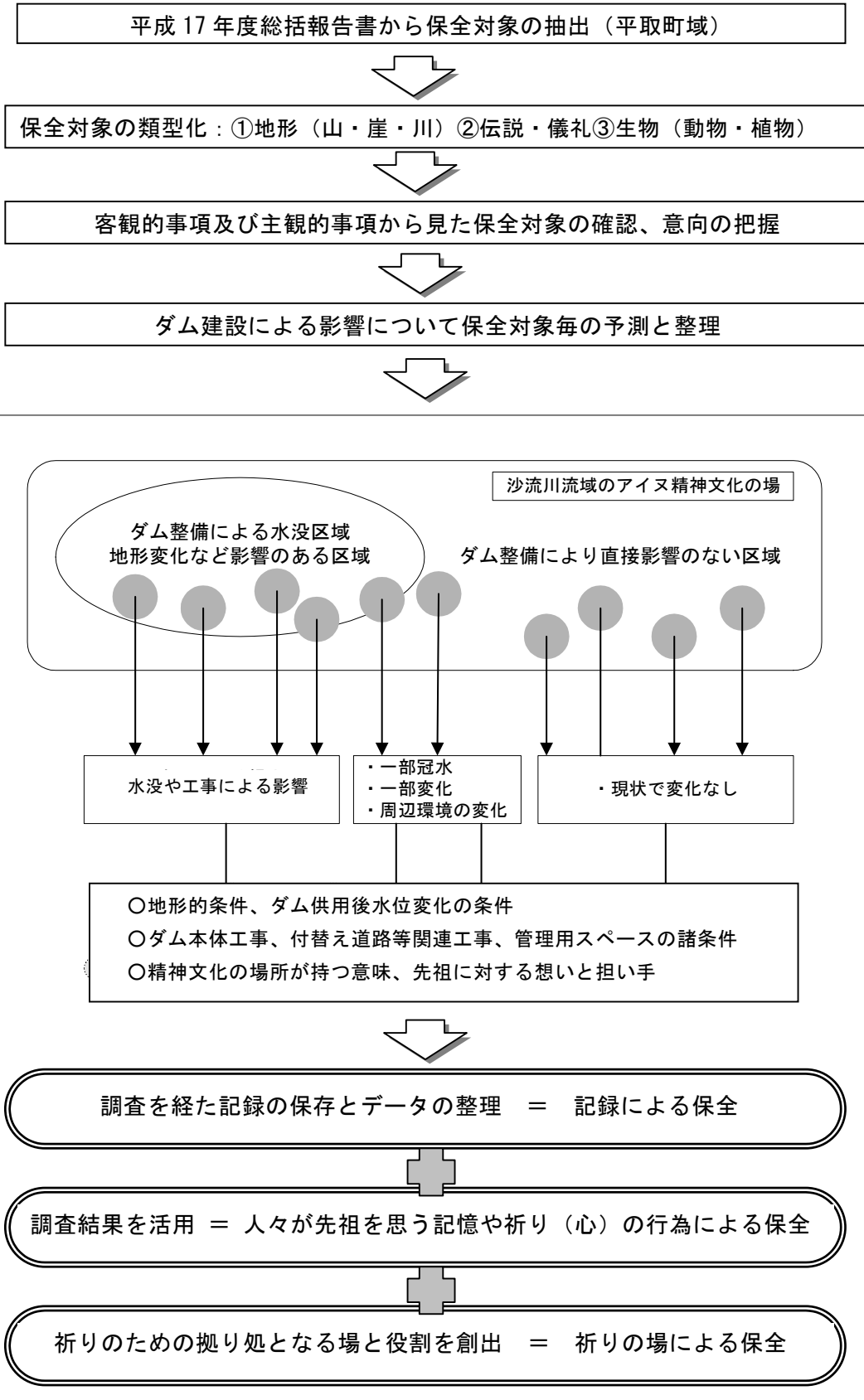
1. 総括報告書をもとに、精神文化に係る保全対象を抽出し、類型化する。
2. 保全対象について、客観的価値（希少性、行きやすさ、現在の利用等）や主観的価値（思い入れ、活用意向等）等の考慮すべき事項について個別に検討を行う。
3. 流域図に精神文化に係る対象地を図示し、影響区分を整理する。
  - ① 直接的にも間接的にも大きく変化のない対象地
  - ② 水没や地形変化など損失が予想される対象地
4. 上記2. 3. をふまえ、それぞれの保全対象について保全対策の総合的な検討を行う。
5. 多様な保全対策の中から、具体的な方策について絞り込みを行う。

（例）現状での保全、記録による保全、場所性を重視した保全、代替による保全 等

＜保全対策検討の流れ＞






＜精神文化保全対象に関する保全対策検討作業の流れ＞



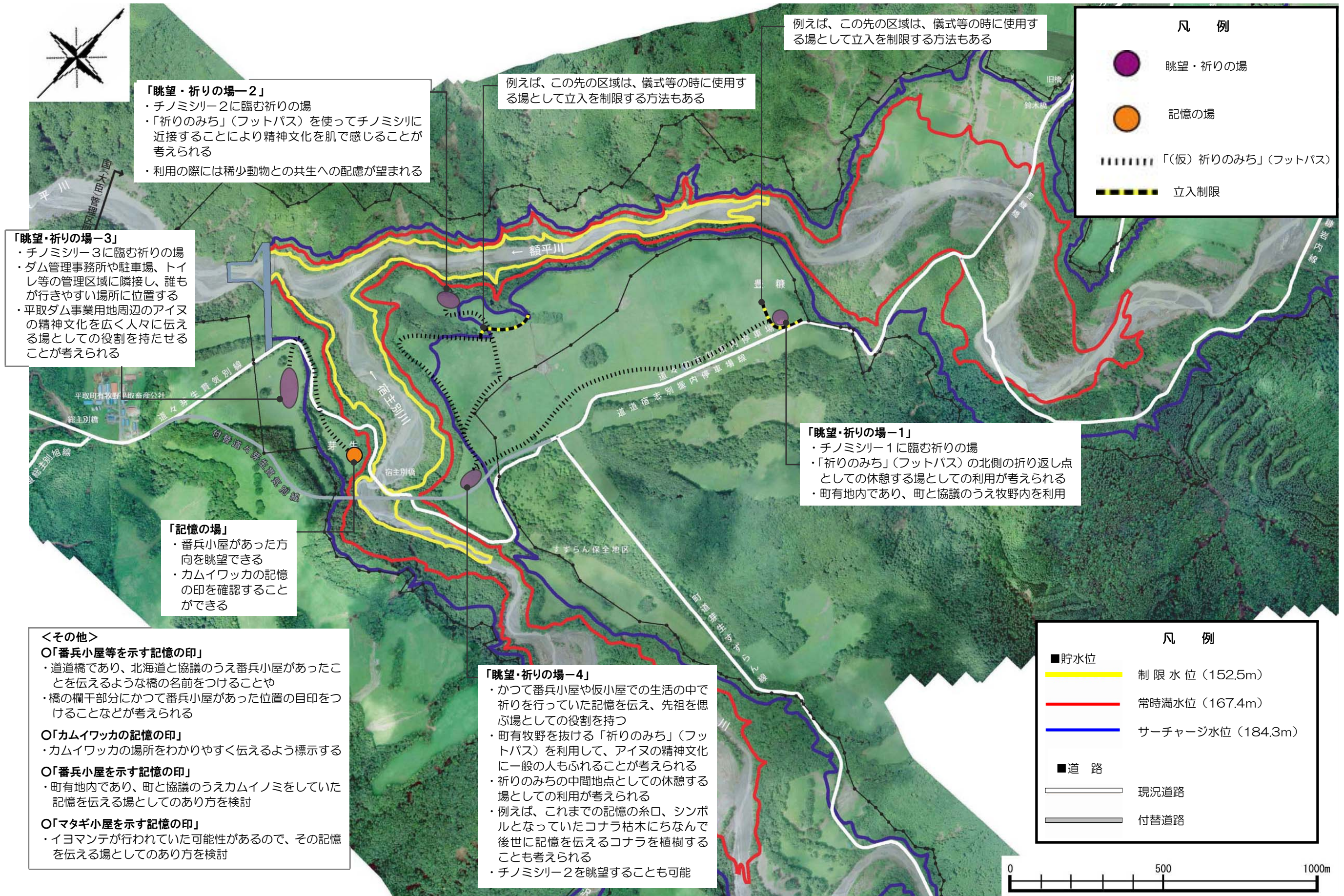
## 平取ダム事業用地及び周辺の祈りの対象とカムイノミ（神への祈り）箇所と保全対策（案）

番号	保全対象名	保全対象の概要	現地の状況	記録による保全	記憶や祈りの行為による保全	祈りの場による保全
1	チノミシリ（我ら祭る所）-1	荷負本村のチノミシリ  長知内の男性の荷負に住んでいた祖父らは、家の中からチノミシリに向かってカムイノミ（神への祈り）をしていた場所		○	○	眺望・祈りの場-1
2	チノミシリー2	荷負本村の人たちや荷負本村の男性のチノミシリ 荷負本村の男性が孫とカムイノミをしていたチノミシリ 荷負の男性のパセオンカミ（位の高い神への祈り）の対象となるカムイ（神）のうちの1人であるクエラン姫神【ポロシルンカムイの2神のうちの1人】がエチナンケ峰（エチナンケ：上の部分がかけている様子）の山）にいるといわれている場所		○	○	眺望・祈りの場-2
3	チノミシリー3	荷負と荷負本村の間のシケレペコタンの方が一番大事にしているチノミシリ  荷負の男性のパセオンカミ		○	○	眺望・祈りの場-3
4	ペテウコピ （川が繋がる所）	カムイ達が集まってコタン（村）を守る相談をしていた場所  川と川がぶつかる場所である合流点は祈りの対象		○	○	ペテウコピを示す 記憶の印 （現地の状況を踏まえて、 今後、可能性を検討）
5	三角小屋跡	額平川と宿主別川の合流点の付近の少し高い場所に三角小屋があり、マタギの人たちが集まって獵へ出かける前にイナウチパ（家の外側にある祭壇）でカムイノミをしていた場所		○	○	三角小屋を示す 記憶の印 （現地の状況を踏まえて、 今後、可能性を検討）

番号	保全対象名	保全対象の概要	現地の状況	記録による保全	記憶や祈りの行為による保全	祈りの場による保全
6	カムイワッカ (神の水)	カムイワッカの前を通る人たちが湧き水にカムイノミをしていた。飲み水としても使用していた		○	○	カムイワッカの 記憶の印 ／記憶の場
7	宿主別橋たもとの番兵小屋跡	荷負本村の男性が番兵小屋の外からチノミシリ【道道芽生貫気別線をすずらん保全地区に向かって300m進んだ場所から見て貫気別山の手前に見える山】に向かってカムイノミしていた場所 チャルパ（先祖や神へ供物などを贈るために散らす）やカムイノミをしていた場所		○	○	番兵小屋を示す 記憶の印
8	宿主別橋たもとの仮小屋	宿主別橋たもとの荷負本村の男性の番兵小屋の道路を挟んだ向かい側に、同じ方の仮小屋があり、カムイノミをする方だったので、ここでもカムイノミをしていた可能性があると言われている場所		○	○	仮小屋を示す 記憶の印
9	宿主別橋たもとのカムイノミ箇所	荷負本村の女性の祖父が、宿主別川の川下やポロシリ（幌尻岳）に向かって祈っていた場所 荷負本村の男性も番兵小屋の向かいのほうにある川越しのチャシ（砦）のような、大きな崖のほうを向き、山と川の神様の両方にお祈りをしていた		○	○	カムイノミ箇所を示す 記憶の印
10	コナラの枯れ木跡付近の番兵小屋跡	荷負本村の男性が住んでいた番兵小屋があり、家の外に幌尻に向かってヌサ（祭壇）があり、そのヌサに向かってカムイノミをしていた場所		○	○	眺望・祈りの場－4

番号	保全対象名	保全対象の概要	現地の状況	記録による保全	記憶や祈りの行為による保全	祈りの場による保全
1 1	すずらん群生地付近の番兵小屋跡	荷負本村の男性の番兵小屋があり、イヨマンテ（熊送り）をした場所 小屋のすぐ側にイノウチパがあり、カムイノミが行われていた場所 又サの他に、カムイワッカとポロシリとピラホラク（ピラ＝崖、ホラク＝倒れる・壊れ落ちる）にカムイノミをしていた場所	 (実際の場所は中央の木よりもさらに奥)	○	町有地内であり、町と協議のうえカムイノミをしていた記憶を伝える場としてのあり方を検討	
1 2	すずらん群生地奥のマタギ小屋跡	荷負本村の男性は、マタギ小屋を持ち宿主別などをイウ和（生活資源採取の場）にしていた。その男性のものは定かではないが、イノウチパがあり、熊の頭などを祀ってあったのを見たという方がいることからイヨマンテが行われていた可能性がある場所		○	イヨマンテが行われていた可能性があるので、その記憶を伝える場としてのあり方を検討	
1 3	宿主別橋より上流の岩、ピラホラク	荷負本村の男性がすずらん群生地付近で牧場番をしていたときに、又サの他に、カムイワッカとポロシリとピラホラクという岩石にカムイノミをしていた		○	9と併せて、カムイノミをしていた記憶を伝える場としてのあり方を検討	

■平取ダム事業用地における精神文化保全対象の保全対策イメージ



<その他>

○「番兵小屋等を示す記憶の印」

- ・道道橋であり、北海道と協議のうえ番兵小屋があったことを伝えるような橋の名前をつけることや
- ・橋の欄干部分にかつて番兵小屋があった位置の目印をつけることなどが考えられる

○「カムイワッカの記憶の印」

- ・カムイワッカの場所をわかりやすく伝えるよう標示する

○「番兵小屋を示す記憶の印」

- ・町有地内であり、町と協議のうえカムイノミをしていた記憶を伝える場としてのあり方を検討

○「マタギ小屋を示す記憶の印」

- ・イヨマンテが行われていた可能性があるため、その記憶を伝える場としてのあり方を検討